

新たに踏み出す健康長寿への道



「統合医療によるまちづくり」の先駆けとして、全国各地から視察が絶えない鳥取県南部町。2016年11月、町民の生活の質の向上を願い、岡田式浄化療法による「エネルギー療法教室」がスタートした。

その立役者が、開催直前まで町長の重責を担ってきた坂本昭文さんだ。「健康問題の解決には、住民のセルフケア意識の高まりが欠かせない。行政が主体となって新しい健康づくりの考え方を紹介し、人々の選択肢を増やすことは、多様な生き方の選択にもつながる」と期待を寄せる坂本さんに、お話を伺った。

さかもと・あきふみ

1949年生まれ。町役場勤務を経て95年、鳥取県西伯町(当時)町長に。2004年からは合併によって誕生した南部町の町長としてさまざまな施策を主導、統合医療によるまちづくりの先駆者として知られる。16年10月に6期21年半務めた町長職を退く。現在は鳥取県農業共済組合・組合長理事、社会福祉法人祥和会理事長などを務めつつ、新たなまちづくりに取り組んでいる。

——健康長寿社会に向かって行政の役割も少しずつ変わり、住民からの期待も大きくなってきていますね。

今思えば、最初の転機となったのは2011年9月、南部町議会ではがん征圧宣言が採択されたことでした。町民一人一人の日常的な健康管理、検診による早期発見、早期治療への意識を高め、皆で「生命だけでなく、生活の質も脅かすがんに負けない社会」を目指そうと願ったことでした。

年が明けるとすぐに、採血だけで一度に複数のがんのリスクを調べられる検診を始めました。当時はエビデンス(科学的根拠)が確立されているとはいえない新しい検査手法でしたが、順番待ちの列が途切れることはありませんでした。こんなにも多くの方が健康に高い関心を寄せているのかと、心底驚いたものです。

検査ではこれまで70例以上の早期がんが発見され、幸い皆さん、早めの治療が功を奏しています。

病気が進行する前に適切な治療を受けることで医療費が抑えられ、町にとっても大きなプラスでした。住民の幸福度は高く、医療費は低くなるのですから、健康問題の解決には病気の早期発見、何よりその前段階の予防に力を入れていくことだと確信した出来事でした。

——ご自身も健康や医療について新しい情報を探し、日々考えを巡らせてこられたかと思えます。

実は14年の秋に、私はひどい腰痛で全く動けなくなりました。強い痛み止めの注射でもなかなか治まらず困り果てていた時、見かねたいところが岡田式浄化療法をしてくれました。正直、そんなことで良くなるかなと思いましたが、痛みは少しずつ和らぎ、10日で仕事に戻れました。

これをきっかけに統合医療学会の認定施設である東京療院を訪れ、浄化療法を再び受けた際、心身ともにかつてない爽快感、充実感を覚えたのです。痛みに効くだ

けではない、これは一体何なんだと、一層興味を持ちました。良かったのは15年4月に行われた国際シンポジウム「これからの医療とまちづくり」に招待していただいたことです。

耳にしたお話の数々に大きく心を揺さぶられました。それまでに南部町が進めてきたことは、まさに統合医療の社会モデルという考えに合致しており、健康問題解決への具体策がよりはっきりとイメージできました。

国際シンポジウムの感動に突き動かされて

——そうした体験に基づく熱い思いが、エネルギー療法教室の開催につながったのですね。

国際シンポジウムの感動を、長年お付き合いのあった厚生労働省の局長に話し、統合医療によるまちづくりを進めるため、国の補助事業として何かできないかと相談しました。国の後押しを受けた事